

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立聾学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	障がいに向き合い、社会的に自立し、将来を生き抜く力を育みます	
(2)	育みたい 幼児児童 生徒像	言語力とコミュニケーションスキルを身に付け、社会で主体的に活動する子どもたち
	ありたい 教職員像	子どもたちの障がい特性を理解し、元気いっぱいの意欲を持って、子どもたちの社会的自立に向けて支援する教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<幼児児童生徒・保護者> コミュニケーション力・言語力・学力・体力の向上、進路指導の充実 <就職先・事業所> コミュニケーション力・言語力の向上、基本的な情報機器活用能力の向上 <地域の学校> 県内唯一の聴覚支援学校としてのセンター的機能の発揮	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<医療機関> 定期的な情報の共有、役割分担 <難聴児支援センター> 定期的な情報の共有、役割分担 <東海地区聾学校> 共同事業の開催 <本校PTA> 安全安心な環境の基盤整備	<医療機関> 専門的な情報の提供 <難聴児支援センター> 専門的な情報の提供 <東海地区聾学校> 様々な場面での学校間交流 <本校PTA> 学校経営への理解と協力
(3) 前年度の学校関係者評価等	幼児児童生徒が積極的に関わり、理解し合おうとする交流学习や地域での活動に取り組んでいる。今後も、お互いが学び合える取組を継続してほしい。また、幼児児童生徒のコミュニケーション力をより高めるために、様々な方と出会える学習の場を設ける取組も継続することが大切である。 教職員の専門性向上をめざし、計画的な研修を行っている。次年度において、新転任者も指導力を十分に発揮できるよう、教職員研修を進めてほしい。	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>【障がいに向き合う】</p> <p>人工内耳などの医療技術の進歩に伴いきこえが良かったり、文字・手話等の情報保障により困り感が少なく、自らの障がいについての理解が十分ではない。また、障がいの多様化により、きこえのレベルが厳しい幼児児童生徒が孤立感を抱く場面も浮き彫りになってきている。これらに対する適切な指導が急務である。また交流教育では、相互理解と共感をさらに実感できる取組が課題である。</p> <p>【社会的に自立】</p> <p>引き続きコミュニケーション力と言語力を高めていく課題と共に、キャリア教育を保護者と連携して進めることも欠かせない。教育活動の取組がキャリアとしてどのように関連し、将来の自立にどうつながるのか、幼児児童生徒と合わせて保護者の認知度も高めることが課題である。</p> <p>【将来を生きぬく力を育む】</p> <p>基礎学力の定着に対して、近年、飛躍的に向上した ICT 環境を活用した授業実践の創造も合わせながら、学部を越えた学習指導の連携が課題である。</p>
	学校運営等	<p>【障がい教育の継承と創造】</p> <p>聴覚障がい教育の一層の発展と充実のためにはその専門性の向上が不可欠である。教育力向上を目指した授業改善などの指導力向上にかかる研修はもちろんのこと、学校 ICT 環境の充実による新たな学習スタイルに対応した研修等においても継続的に見直すことが必要である。</p> <p>【危機管理体制の確立】</p> <p>防災や給食の異物混入への対応等、危機管理体制のさらなる構築と、継続して危機管理マニュアルの整備をすすめる、より水準を高めていく必要がある。そのためには、実際に起こった事案や、現在想定されていない危機についても改めて考える研修会等を開催するなど、より具体的な場面を想定した避難訓練等、様々な視点で危機管理のあり方を見直していくことが必要である。</p> <p>【教職員が働きやすい職場づくり】</p> <p>働きやすい職場づくりとして、相互理解・協力に向けた取組や、業務のスリム化、会議時間の設定など総勤務時間の縮減に向けて、さらに具体的で実効性のある取組が必要である。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>【障がいに向き合う】</p> <p>自らの障がいについて理解し、必要な支援を周囲の人に説明・発信し、理解を得る力を高める等、自らの障がいに向き合う教育を推進する。そうして育んだ力を背景に、幼児児童生徒が学校間交流等の様々な交流の中から、互いの理解と共感が実感できる交流教育に取り組む。</p> <p>【社会的に自立】</p> <p>教育活動全体を通じて、言語力とコミュニケーション力を高め、協力し合う活動など、幼児児童生徒が多様な考え方を理解し、互いを認め合い、自己肯定感を高める取組を進める。また、生活指導についても、学校生活や社会生活のルールを守り積極的に社会参加できる力や、他者と協調・協働する力、公の基準に合わせて自分をコントロールできる判断力をつけさせる。</p> <p>具体的には、小学部は、自分の能力・適性・個性を見つけ出す力、中学部は、自分の将来についての考え方を深められる力、高等部では、自分の能力・適性・個性と、身につけた技術を生かせる就職・進学できる力が備わるよう指導の充実を図る。またこのような取組をキャリア教育として、幼児児童生徒だけでなく保護者にも伝え、学校と家庭で連携した取組とする。</p> <p>【将来を生き抜く力を育む】</p> <p>自らの進路を主体的に選択するために、基礎学力のさらなる充実を図る。そのために今までの教育実践の改善の取組とともに、ICT 機器の活用を促進する。また情報や情報手段を選択し活用していくために、「情報活用能力」を身に付け、情報社会に対応していく力を育成する。</p>
------	---

【障がい教育の継承と創造】

センター的機能を発揮し、医療・福祉等の専門家との連携協力体制を強化するとともに、聴覚障がい児（者）の教育支援のため、保育所・幼稚園・学校、市町の行政や関係機関と連携を図り、教育相談に積極的に対応する。令和8年に予定されている移転をふまえ、今後10年～15年先を見据えた聴覚に障がいのある幼児児童生徒の実態に対応した教育内容の検討と施設設備の充実にむけた取組をすすめるとともに、聴覚障がい教育の専門性の向上にむけた取組（言語指導・手話活用に係る研修等）の推進、学校ICT環境の充実による新たな学習スタイルに対応した研修等に取り組む。また、盲学校の子どもたちとの交流を図る。

【危機管理体制の確立】

学校の安全に関する取組（災害や人権の観点）を徹底し、公共交通機関を利用する登下校時の安全管理に努める。実際に起こった事案や、現在想定されていない危機についても改めて考え、より具体的な場面を想定した避難訓練等、様々な視点で危機管理のあり方を見直し、危機管理マニュアル、防災マニュアルの改訂も含めた防災体制の再構築に取り組む。

【教職員が働きやすい職場づくり】

学校ICT環境の向上にとともに、ICT機器を積極的に活用し、業務の効率化に取り組むとともに、業務内容等を見直し、スリム化を図ると共に、会議に於ける協議内容の精選と会議資料の事前配付・事前確認の徹底により会議時間を短縮する。教職員同士の意思疎通を密にし、幼小中高と連続した一貫教育であることのメリットを生かし、共通認識がもてるよう、学部を越えた連携や情報共有をすすめながら業務の合理化を考えていく。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動 重点目標：学部を越えた一貫した指導体制の構築

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

めざす学校像	項目	取組内容・指標	結果	備考
障がいに向き合い	障がい理解 相互理解・共感 交流教育	<p>【幼稚部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交流学习(三重保育院2回、藤水幼1回)を通して多くの友だちと触れあい、ともに活動する喜びを知り、様々な人との関わり方を身につける。(満足度80%) <p>【小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交流学习[倭小(年4回)・藤水小(年1回)]を通じて仲間づくりに取り組む。(満足度75%) ○自立活動等で、障がい理解・認識、自己の生き方について考える学習に取り組む。(年3回) <p>【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交流学习(難聴交流2回、橋南中3回、水戸聾1～2回)を通して、同年齢や異年齢の仲間やきこえる人と積極的に関わろうとする態度を養う。(満足度75%) <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○障がい認識について、グループでの話し合いを進める。(満足度60%) ○他校との交流学习などを通して、自己を客観的にとらえる。(満足度60%) <p>【寄宿舎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○舎生会や行事等の活動を通して、自己理解と相互理解を深める。(月1～2回) 		

		<p>○視覚障がい者についての意識を持つ。(年1回)</p> <p>【進路指導部】</p> <p>○進路決定に必要な情報を提供し、懇談、働くろう・難聴者を講師とした進路学習により、自らの生き方について考える。(年7回以上、満足度 70%)</p> <p>【特別支援教育部】</p> <p>○聴力測定(年2回)の実施と聞こえに関する通信の発行(年4回)を通して、自分のきこえの状況を知り、補聴機器の管理に必要な知識を学ぶ。</p> <p>【人権教育推進委員会】</p> <p>○子どもの人権を尊重する教育実践を振り返り、改善のための教職員チェックシートの実施と検証を行う。(年2回 満足度 80%)</p>		
社会的に自立し	コミュニケーション力・言語力 キャリア教育 自己肯定感 協調・協働	<p>【幼稚部】</p> <p>○「語彙チェック」を実施し、コミュニケーション力、語彙力の向上に努める。(年2回、実施率 100%)</p> <p>【小学部】</p> <p>○朝の学習・「文法テスト」「J.coss」・言語聴覚士による指導を行う。(達成度 75%)</p> <p>【中学部】</p> <p>○言語聴覚士による発音・言語学習や体系的な手話言語・書記日本語学習に取り組む。(満足度75%)</p> <p>【高等部】</p> <p>○他校との交流学习を通してコミュニケーション力と言語力を育てる。(年2回、満足度 60%)</p> <p>【寄宿舍】</p> <p>○寄宿舍生活(舎生会活動、行事買い物学習など)を通して、コミュニケーション力や社会形成能力を育む。(満足度80%)</p> <p>○盲学校寄宿舍と交流を行い、お互いを知る。(年2回)</p> <p>【進路指導部】</p> <p>○キャリアパスポートを活用した進路学習に取り組む。(年3回)</p> <p>【図書委員会】</p> <p>○言語力やコミュニケーション能力の向上を図るため、各学部・教科等と連携し、図書館を利用した学習に取り組む。(月1回)</p>		
将来を生き抜く	基礎学力 情報活用能力 ICT 機器の活用	<p>【幼稚部】</p> <p>○「個別指導カリキュラム」プリント・言葉カード等の内容・活用の検討を行い、言語力・コミュニケーション力の基礎を育む。(通年)</p> <p>○絵本の読み聞かせや行事等でICT機器を活用す</p>		

力を育みます		<p>る。(通年)</p> <p>【小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICT 機器を活用した教科学習に取り組む。 (満足度 75%) ○児童の基礎学力の定着を目指し、提案授業に取り組む。(1人1回実施、達成度 100%) <p>【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○iPad 等の様々なツールを用いて、コミュニケーションを図る力を育む。(モラル学習 年3回、ツールを用いた発表の場の設定 年3回 達成度 75%) <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎日、朝の学習で基礎学力の充実を図る。 (満足度 70%) ○ICT機器を授業で活用する。(満足度 70%) ○防災学習に取り組む。(年 1 回、満足度 60%) <p>【寄宿舎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個に応じた指導により、生活力の向上と生活を豊かにする取組を行う。(年5回、研修会で検討と評価) ○余暇時間を充実させる。(満足度 70%) <p>【教務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学部で、教育課程について協議する。(年2回) <p>【生徒指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交通安全学習を行う。(年1回、満足度80%) ○給食を通して、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身につける。(残食調査:12 月実施 残食率前年度比、かめかめメニュー:実施率 90%) ○主体的な体調確認を通して、自ら健康管理できる力を身につける。(満足度 70%) <p>【図書委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図書館の使い方、資料の探し方等のガイダンスを行う。(年1回) <p>【進路指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1人1台端末を活用した進路学習および就労体験報告を行う。(年2回、参加者評価 A が 60%以上) <p>【防災委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防災訓練を実施する。(年間3回、達成度 80%) 		
改善課題				
(年度末に記載)				

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
聴覚障がい教育の継承と創造 「専門性・信頼向上」	◎授業改善、専門性向上のための研修会の実施(満足度 80%) ・障がい理解、キャリア教育に係る研修会 ・新転任職員対象聴覚障がい理解校内研修会・教職員対象の手話研修会 ・公開講座、ノートテイク研修会、授業公開 ・教職員人権研修会 ・ICT 機器(iPad やプロジェクター等)取り扱い研修会 ◎センター的役割の発揮(満足度 70%) ・地域の学校等に在籍する難聴の幼児児童生徒の保護者・教職員を対象とした教育相談の実施 ・地域の学校等への支援訪問 ・関係機関と連携した地域支援や合同会議の実施 ◎不祥事根絶にむけた取組推進 ・サービス規律、不適切な指導防止のためのコンプライアンス研修(年2回 満足度 80%) ◎情報提供による信頼の構築 ・報道機関への資料提供(年2回)		
危機管理・防災体制の再構築	◎保護者満足度アンケート「安全安心」項目において(そう思う: 満足度 70%以上) ・危機管理・防災に備えた教職員研修の実施 ・様々な場面を想定した危機管理・防災対応訓練の実施(年3回)		
教職員が働きやすい職場づくり 「相互理解・協力連携」	◎教職員満足度アンケート「働き方:働きやすい環境づくりが進展している」項目において(そう思う:満足度 30%以上) ・1人あたりの月平均時間外労働[5時間以下] ・年 360 時間を超える時間外労働者数[0人] ・月 45 時間を超える時間外労働者数[0人] ・1人あたりの年間休暇取得日数[16 日以上] ・設定した日の定時に退校できた職員の割合[95%以上] ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合[100%] ・60 分以内の校内会議の実施[90%以上] ・校内会議におけるペーパーレス化[全体会議 50%以上] ・相互理解や意思疎通の円滑化のためのオフサイトミーティング実施[年1回] ・Google workspace の活用[年5回]		
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次へ の取組方向	(年度末に記載)
-----------------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	(年度末に記載)
学校運営につ いての改善策	(年度末に記載)